

国

語

注意

1. 問題は全部で11ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	●	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次の記事は、柳田國男『山の人生』の一節である。よく読んで後の問に答えよ。

昔話の中にもおりおり同じ例を伝えているために、かえって信じている人が少なからうと思うが、これはすでに十七八年も以前に筆記しておいた陸中南部の出来事であつて、この小さな研究と深い因縁があるゆえに、今一度じつと考えて見ようと思うのである。ある村の農家の娘が栗を拾いに山に入ったまま還つて来ず、親はもう死んだ者とあきらめて、枕を形代に葬送も済ませてしまつて、また二三年も過ぎてからの事であつた。村の獵人の某という者が、五葉山の中腹の大きな岩の陰において、この女に行逢つて互いにびつくりしたという話である。

あの日に山で怖ろしい人にさらわれ、今はこんなところに来て一緒に住んでいる。遁げて還ろうにも少しも隙がない。そういううちにもここへくるかも知れぬ。どんなことをするか分らぬといふので、ろくに話も聞かずに早々に立ち退いてしまつたといふことである。その男といふのは全体どんな人かと獵人が尋ねると、自分の眼には世の常の人間のように見えるが、人はどう思ふやらわからぬ。ただ眼の色が恐ろしくて、せいがずんと高い。時々は同じような人が四五人も寄り集まつて、何事か話をしてまたいずれへか出て行く。食べ物なども外から持つて還るのをみると、町へも買物に行くのかも知れぬ。また子どもはもうなべんか産んだけれども、似ていないから俺の児ではないといつて、殺すのか棄てるのか、みないずれへか持つて行つてしまつたと、その女が語つたそうである。

山が a 五葉山であるから、一つの話ではないかとも思うが、あるいはまた次のように話す者もあつた。女は獵人に向かつて、お前とこうして話しているところを、もしか見られると大変だから、早く還つてくれといつたが、出逢つてみた以上は連れて還らねばすまぬと、強いて手を取つて山を下り、ようやく人里に近くなつたと思ふところに、いきなり後から怖ろしい背の高い男が飛んできて、女を奪い返して山の中へ走り込んだともいつている。維新前後の出来事であつたらしく、まだその娘の男親だけは、生存しているといつて、家の名まで語つたそうである。これだけ込み入つたかつ筋の通つた事件は、一人の獵人の作爲に出たと思われぬはもちろん、よもや突然の幻覚ではなからうと思ふが、それを確認させるだけの証拠も、残念ながらも存

在せぬのである。ただ少なくとも陸中五葉山の麓の村里には、今でもこれを聴いて寸毫も疑いあたわざる人々が、住んでいるところだけは事実である。そうして彼らがほぼ前の話を忘れようとするところになると、また新たに少し似たような話が、どこからともなく伝わってくることに、これまでではほとんどきまっていたのである。

右の珍しい実例の中でことに自分たちが大切な点と考えるのは、不思議なる深山の婿の談話の一部分が女房にも意味がわかつていたということ、そのキカイな家庭における男の嫉妬が、極端に強烈なものであつて、わが子をさえ信じえなかつたほどの不安を与えていたこととである。すなわち彼らはもし真の人間であつたらあまりにも我々と遠く、⁴もしまた神か魔物かだつたというならば、あまりにも人間に近かつたのであるが、しかも山の谷に住んだ日本の農民たちが、これを聴いてありうべからずとすることができなかつたとすれば、それは必ずしも漠然たる空夢ではなかつたろう。⁵誤つたにもせよなんらかの実験、なんらかの推理のあらかじめ素地をなしたものが、必ずあつたはずと思ふ。⁶現代人の物を信ぜざる権利は、決してこれによつて根強い全民衆の迷信を、無視しうるまでの力あるものではないのである。

かつて三河の某村で、狸が一人の若者に憑いたことがあつた。狐などよりは口軽く、むやみにいろいろのことをしゃべるのが、この獣の特性とせられているが、この時も問はず語りにおれはこの村の誰という女を、山へ連れて行つて女房にしているといつた。でたらめかとは思つたが、実際ちようどその女がいなくなつて、しきりに捜している際であつた故に、根ほり葉ほり隠しておくという場所を問いただし、もしやというので山の中を捜して見ると果して岩穴の奥とかにその娘がいたということである。還つてきてから本人が、どういふ風に顛末を語つたか。この話をしてくれた人も聞いてはおらず、また強いて詳しくその点を究めるまでもないか知らぬが、風説にもせよ世を避けて山に入つて行く若い女を一種の婚姻のごとく解する習わしは広く行われていたので、それが不条理であればあるだけに、底に隠れた最初の原因が、ことに学問として尋ねてみる価値を生ずるのである。猿の婿入の昔話は、これにも欺きおおせて無事に還つてきたという童話式のものほかに、とうとう娘を取られたという因縁話も伝わっている。竜蛇の婚姻に至つては未遂げて再び還らなかつたという例がことに多い。黒髪長くまみ清らかなる者は、何びともこれを愛好する。齡盛り^{よわいさか}にして忽然と身を隠したとすれば、人に非ずんば何か他の物が、これを求めたとスイダンする^Bのが自然である。

問一 傍線部「信じる人が少なからうと思うが、これはすでに十七八年も以前に筆記しておいた陸中南部の出来事であつて、この小さな研究と深い因縁があるゆえに、今一度じつと考えて見ようと思うのである」とあるが、結論として、筆者はこの事例の信憑性についてどのような考えを持っているか。その説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は「1」。

- ① 不思議な話なので信じる人はあまりいないかもしれないが、もちろん事実であることに疑いはないと考えている。
- ② ただの迷信や突然の幻覚などではないと思われるが、それを事実として確認する証拠は存在しないと考えている。
- ③ 神がかつたような事件も、いまある証拠を積み上げていけば事実であることが証明できると考えている。
- ④ すべては嘘や迷信にすぎないのであるが、始めから迷信だといってしまつては学問の楽しみが消えると考えている。
- ⑤ 信じている人が少ないからこそ学問的に事実性を証明しなければならず、疑うよりもすべて信じようと考えている。

問二 二重傍線部A「形代」の最適な読みをひらがなで記せ。問二は解答用紙(その1)を使用。

問三 二重傍線部A「形代」について、枕を「形代」にしたとはどういう意味か。最適な説明を次の①～⑤から選び、記号をマーク

せよ。解答欄は「2」。

- ① 枕がないので、あたかも枕があるかのように形だけ装つたということ。
- ② お金がないために、その人の枕を売つてそのお金で弔いを済ませたということ。
- ③ その人の持ち物のうち、枕を形見として残り、あとは処分してしまつたということ。
- ④ その人愛用の枕の形をもとにした棺を作つて、弔いを済ませたということ。
- ⑤ 遺体がないために、その人の用いていた枕を遺体の代わりとしたということ。

問四 空欄「a」に入る語句として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は「3」。

- ① 無名の
- ② 類似的
- ③ 同じく
- ④ 見知らぬ
- ⑤ 異なる

問五 二重傍線部B「寸毫」の読みとして、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は④。

- ① すんりん ② すんもう ③ すんぼう ④ すんごう ⑤ ともう

問六 傍線部2「不思議なる深山の婿の談話の一部分」とあるが、それは具体的にどのようなことか。最適な説明を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は⑤。

- ① 怖ろしい男が、たとえ獵人と会つても口をきくなど女に話したこと。
② 怖ろしい男が、食べ物を外から持って帰ってくる女に話したこと。
③ 怖ろしい男が、仲間たちと町へ食べ物を買に行くと女に話したこと。
④ 怖ろしい男が、女の生んだ子供をいずれかへ連れて行くと女に話したこと。
⑤ 怖ろしい男が、女の生んだ子供が自分の子供ではないと女に話したこと。

問七 二重傍線部C「キカイ」を最適な漢字で記せ。問七は解答用紙(その1)を使用。

問八 傍線部3に「もし真の人間であつたとしたら」とあるが、通常の人間であるという仮定を筆者はなぜしなければならなかつたのか。その理由として最も不適切な説明を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は⑥。

- ① 男の外見は、一見通常の人間のようにも見えると女が話している点。
② 男は単独ではなく、同じような仲間がほかにもいると女が話している点。
③ 男の会話の一部分が、人間の言葉として理解できたと女が話している点。
④ 男が食べ物などをどうやら町へ買いに行けらしいと女が話している点。
⑤ 男が女との間に、人間のように赤子をもっている女が話している点。

問九 傍線部4「もしまた神か魔物かだったというならば」とあるが、筆者はなぜ通常の人間ではないという仮定をしなければならなかったのか。その理由として最も不適切な説明を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 7。

- ① 男の眼の色が恐ろしく、背が非常に高く、ただの人間とは違うさまであったと女が述べている点。
- ② 男にさらわれてしまい、逃げ出そうにも少しも隙がなく、何をするか予測できないと女が述べている点。
- ③ 男はただの人間とするにはあまりにも嫉妬深くて、自分の子供ですら信じられないと女が述べている点。
- ④ 男はただの人間では考えられないほど、すばやく移動できることを女が述べている点。
- ⑤ 男は空を飛ぶことができるらしく、おそらく飛ぶための羽があるかのように女が述べている点。

問十 傍線部5「誤ったにもせよなんらかの実験、なんらかの推理のあらかじめ素地をなしたものが、必ずあったはずと思う」とあるが、これと同じ内容のことを言っている部分を本文中から六十文字程度(句読点も字数に数える)で抜き出す時、その最初の五文字として、最適なものをおの①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は 8。

- ① 維新前後の
- ② これだけ込
- ③ ただ少なく
- ④ そうして彼
- ⑤ 右の珍しい

問十一 傍線部6「現代人の物を信ぜざる権利は、決してこれによって根強い全民衆の迷信を、無視しうるまでの力あるものではないのである」とあるが、筆者のいいたいことはどのようなことか。次にあげる説明のうち、最も不適切なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は9。

- ① 狐や狸の迷信は、不条理であればあるほど、事実として信じなければならぬのである。
- ② 現代人は、きちんと立証されたものでなければ事実として考えず、迷信としてしまう。
- ③ ここで採り上げた迷信の事例は、土地の人々が事実として信じており、そこには何らかの素地がある。
- ④ 現代人の、始めから迷信をすべて否定しようとする態度には、おごりがある。
- ⑤ 現代人といえども、根強い迷信を無視してよいものではなく、しつかり考察すべきである。

問十二 二重傍線部D「顛末」の読みをひらがなで記せ。問十二は解答用紙(その1)を使用。

問十三 二重傍線部D「顛末」は、この文脈において何を指しているのか。説明として、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は10。

- ① どうして狸の女房となろうと思ったのか、その理由の一部始終。
- ② どのような形で山に入り、どのように暮らしていたのかといういきさつ。
- ③ 突然狸に連れ去られたときの、若い女性としての驚きの大きさ。
- ④ 無理やり狸の妻とされてしまい、とうとう発見された時の心の状態。
- ⑤ 最後にはハッピーエンドとなった結末における、その喜びの大きさ。

問十四 二重傍線部E「スイダン」を漢字に直すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は11。

- ① 酔談
- ② 推談
- ③ 誰断
- ④ 錐談
- ⑤ 推断

二 豊雄は紀伊国新宮の漁師の次男で、父と跡継ぎの兄(太郎)とで切り盛りしている家に居候いこうをしている。豊雄は漁師の家には不似合ふにがひいな、学問を好む青年だが、ふとした偶然から真女子まなごという謎の美女と知り合い、夫婦になる約束をする。その印に、豊雄は真女子から金銀で装飾を施した立派な太刀を渡され、家に持ち帰ってくる。以下はそれに続く部分であるが、この文章を読んで後の間に答えよ。

太郎は網子あじととのほるとて、つとめて起き出で、豊雄の寝屋の戸の間をふと見入れたるに、消え残りたる灯火の影に、きらきらしき太刀を枕に置いて臥したり。「あやし。いつちより求めぬらむ」とおぼつかなくて、戸をあららかに開くる音に目さめぬ。

太郎があるを見て、「召し給ふか」といへば、「きらきらしき物を枕に置きしは何ぞ。価あたい高き物は海人あまの家あまにふさはしからず。父の見給はば、いかに罪し給はむ」といふ。豊雄、「財たからを費やして買ひたるにもあらず。昨日、人の得させしを、ここに置きしなり」。太郎、「いかでさる宝たからをくるる人このあたりにあるべき。あなむつかしの唐言書かごきたる物を買ひたむるさへ、世よの費つひえなりと思へど、父の黙りておはすれば、今までもいはざるなり。その太刀帯たがひびて、大宮の祭まつりを練るやらむ。いかにものに狂ふぞ」といふ声の高きに、父聞きつけて、「いたづら者が何なにことをかし出でつる。ここにつれ来よ、太郎」と呼ぶに、「いつちにて求めぬらむ、軍将いくさたちのはき給ふべききらきらしき物を買ひたるはよからぬこと、御目ごめのあたりに召して、問ひあきらめ給へ。おのれは網子あじどものおこたるらむ」と言ひ捨てて出でぬ。

母、豊雄を召して、「さる物、何の料りょうに買ひつるぞ。米も錢も太郎が物なり。吾主わがぬしが物とて何をか持ちたる。日ごろはなすままにおきつるを、かくて太郎に憎まれなば、天地の中あまにいつくに住むらむ。賢かしこきことをも学まなびたる者が、などこれほどのことわいだめぬぞ」といふ。豊雄、「まことに買ひたる物にあらず。さる由縁ゆかりありて人の得させしを、兄の見とがめてかくのたまふなり」。父、「何の誉ほめれありてさる宝たからをば人のくれたるぞ。さらにおぼつかなきこと。ただ今所縁いはれ語り出でよ」とののしる。豊雄、

「このこと、ただ今は面^{おもて}俯^ぶせなり。人づてに申し出で侍らむ」といへば、「親兄にいはぬことを、誰にかいふぞ」と声あららかなるを、太郎の嫁の刀自^{とじ}、かたへにありて、「このことおろかなりとも聞き侍らむ。入らせ給へ」となだむるに、つひ立ちて入りぬ。豊雄、刀自に向かひて、「兄⁷の見とがめ給はずとも、みそかに姉君をかたらひてむと思ひまうけつるに、はやくさいなまるることよ。かうかうの人の女のはかなくてあるが、『後^{うしろみ}見してよ』とて賜へるなり。己^{おの}が世知らぬ身の、御^{ゆゑ}赦^{ゆる}しさへなきことは、重き勘^{かん}当^{たう}なるべければ、今さら悔ゆるばかりなるを、姉君よくあはれみ給へ」といふ。刀自うち笑みて、「男子^{おのこ}のひとり寝し給ふが、かねていとほしかりつるに、いとよきことぞ。おろかなりとも、よく言ひとり侍らむ」とて、その夜、太郎に、「かうかうのことなるは幸ひにおほさずや。父君の前をもよぎにいひなし給へ」といふ。

(上田秋成『雨月物語』による)

〈注〉

* 網子 || 配下の漁師。

* 海人 || 漁師。

* 唐言書きたる物 || 漢籍のこと。

* 世の費え || 無駄な出費。

* 大宮の祭 || 新宮速玉大社の大祭。

* 軍将 || 武将。

* おのれは網子どものおこたるらむ || 私は網子たちが怠けないように浜へ行く。

* 誉れ || 名譽なこと。

* 面俯せ || 恥ずかしいこと。

* 刀自 || 年配の女性。主婦。

* 後見してよ || 夫として世話をして欲しい。

問六 傍線部4「御目のあたりに召して、問ひあきらめ給へ」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は17。

- ① 実際に見て尋ねても無駄だと了解してください。
- ② 自分自身で質問してからあきらめてください。
- ③ 見えるところまで来てやりとりを聞いていてください。
- ④ 目つきに注意して探ってみてください。
- ⑤ 目の前に呼んで問いただしてください。

問七 傍線部5「などこれほどのことわいだめぬぞ」の「これほどのこと」とはどのようなことを指すか。指示内容として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。なお「わいだめ」は「分別する・区別する」の意味である。解答欄は18。

- ① 居候の豊雄は自分の財産を持つてはいけないということ。
- ② 兄弟げんかをするには聖賢の教えに反すること。
- ③ 太郎の金を使うと、太郎が激怒すること。
- ④ 厄介者の豊雄には、勝手なことをする資格がないということ。
- ⑤ 太刀の価格が相場に比して不当に高いということ。

問八 傍線部6「聞き侍らむ」の動作主(主語)として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は19。

- ① 太郎
- ② 太郎の嫁の刀自
- ③ 豊雄
- ④ 豊雄の父
- ⑤ 真女子

問九 傍線部7「兄の見とがめ給はずとも、みそかに姉君をかたらひてむと思ひまうけつるに」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は20。

- ① 兄がわかってくれなくても、やさしい姉君だけはわかってくださるだろうと思っておりますのに。
- ② 兄が見とがめなかつたとしても、いつか姉君には露顯するだろうと思っておりますのに。
- ③ 兄が見とがめたりしなくても、ひそかに姉君とは相談しようと思っておりますのに。
- ④ 兄が気づかないことでも、おのずから姉君には察しがつくだろうと思っておりますのに。
- ⑤ 兄が大目に見てくれたとしても、こっそり姉君には罪を告白しようと思っておりますのに。

問十 傍線部8「かねていとほしかりつるに」の意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄は21。

- ① 以前から望ましいと思っていたので。
- ② 以前より立派になつたと感じていたので。
- ③ かねてより困つたことだと思っていたので。
- ④ ずっとひそかに恋しいと思っていたので。
- ⑤ 前から気の毒だと思っていたので。

問十一 この文章の作者上田秋成とほぼ同時代の人物を次の①～⑤から一人選び、記号をマークせよ。解答欄は22。

- ① 紀貫之
- ② 兼好法師
- ③ 松尾芭蕉
- ④ 紫式部
- ⑤ 本居宣長

